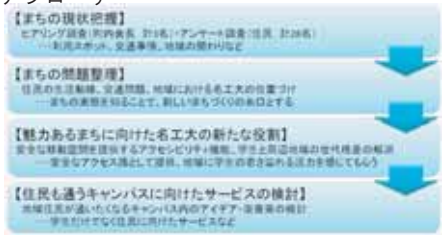
住民も通うキャンパス
～名工大から始まる新たなまちづくり～

私たちの在学する名古屋工業大学（愛知県名古屋市昭和区御器所町）は約14000m2程の小さなキャンパスで周囲には住宅地や都市公園、大型商業施設、大学病院が位置しています。
このような立地を活かし、キャンパスを地域住民も集い・憩う場として提供し、新たな地域コミュニケーションを促す、大学を核としたまちづくりを提案します。

●本提案のアプローチ



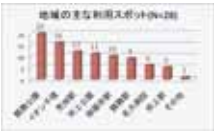
●まちの現状

≫対象地域の設定

本提案の対象地域は名古屋工業大学周辺地域である吹上・鶴舞学区とした。西側を通るＪＲ中央線、南・北・東側を通る幹線道路に囲まれた地域である。地区の生活圏には都市公園や大学病院があり、また大型商業施設が隣接している。

≫地域の主な利用スポット

地域住民アンケート調査を行った。鶴舞公園や鶴舞駅、イオン千種店、名大病院など日常的に利用するスポットが地域の北・西方向に多いことが確認できた。



≫地域周辺環境

① 大型商業施設のイオン千種ショッピングセンター。24時間営業で食料品から日用品まで手に入り、毎日多くのお客で賑わっている。

② 地区の北側には若宮大通と名古屋高速が並行して通っている。高速道路の入口もあるために、地区内の通過交通を誘発している原因の一つである。

③ 鶴舞公園と名大病院に挟まれたこの道は名工大と鶴舞駅を結んでいる。歩道が整備され、また並木道となっているため、快適な歩行空間となっている。

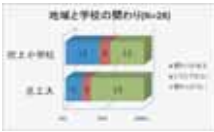
④ 地域の象徴である鶴舞公園は憩いの空間が形成されている。公園内の散策路は鶴舞駅利用者の経路としても利用されている。

⑤ 大学南側を東西に通るこの道はバス路線にもなっており、交通量が多い。また、歩行者や自転車利用者も非常に多い。道路幅員も狭く、歩道がないために通行時は危険に感じる。

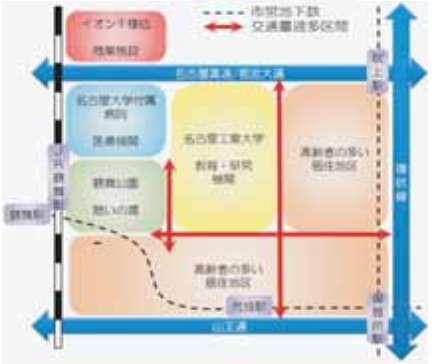
⑥ 大学東側を南北に通るこの道は、自動車の通過交通が非常に多い。住宅地であるために道幅も狭く、歩道も整備されていないため、交通事故も少なくない。

≫その他（アンケート・ヒアリング調査より）

- まちの高齢化が進み、住人が減少してきている。（町内会長）
- 名工大の下宿生が減ってきている。（町内会長）
- 昔はイベントを通して学生とのコミュニケーションはあったが、今では全く無い。住民間では老人会などでコミュニケーションを行っている。（町内会長）
- 近隣小学校は運動会や選挙の投票所などで施設提供を行うなど、名工大に比べ地域との関わりが高い。（アンケート調査）



●現在の地域構造概略図



●魅力あるまちに向けた名工大の新たな役割

◆安全な移動空間を提供する アクセシビリティ機能

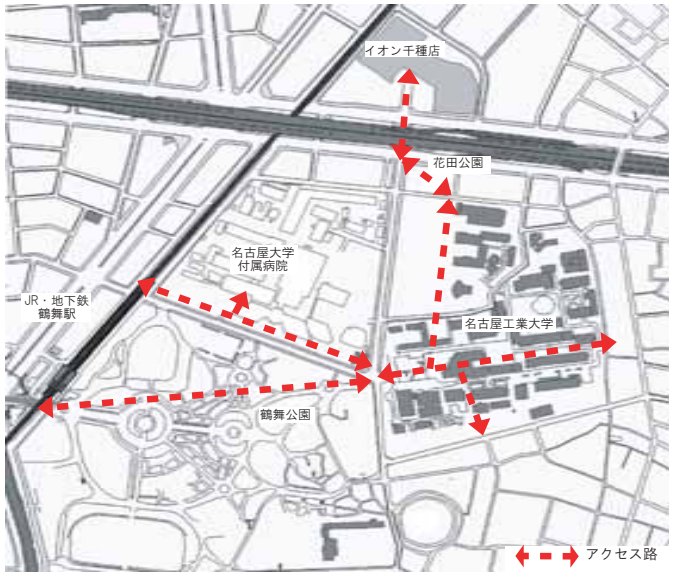
…周辺スポットを利用する際の安全なアクセス路として提供。

◆学生と周辺地域の世代格差の解消

…学生と地域住民との接点の場をつくり、高齢化するまちへ学生の若さ溢れる活力を感じてもらう。

●アクセス路の提案

キャンパス内は車両通行ルールによって、歩行空間と車両通行路が分断されている。また車両通行路にはハンプも設置され速度抑制対策も行われており、歩行者の安全が確保されている。



●“住民も通うキャンパス”に向けたサービス

住民に学内をアクセス路として強制的に利用させるだけには無理がある。そのため快適性・利便性、学生とのコミュニケーションなどの視点から住民も通う大学にするためのサービスについて検討する。

①展望台
11階建ての2号館校舎は名古屋都心部を一望することができる隠れた絶景スポット。住民の方にも開放し、地域の魅力の一つとする。

②オープンカフェ
学生たちのキャンパスライフを感じることができるオープンカフェ。キャンパス内を通り、ふらっと立ち寄り気軽に軽食やお茶を楽しむことができる。

※イメージ図

③大学紹介ゾーン
地域の方に向けて学生が行っている研究やサークル活動をポスター等で紹介する。地域の方に学生の取り組みを知ってもらい、大学と地域を近づける。

※イメージ図

④地域情報掲示板
キャンパス内の動線上に掲示板を設置し、地域のイベント情報などを住民や学生向けに発信。

※イメージ図

⑤一本松古墳
キャンパス内には古墳が保存されている。学生たちの間では古墳に登ると留年すると言われている…が、地域の長い歴史や四季を感じることができる。

⑥コミュニティスペース
地域住民と学生が集う場。イベント施設としても利用可能。地域と学生のコミュニケーションが生まれる場。

●本提案の期待と課題

- 地域住民の方にも日常的に大学を利用してもらうという、大学から発信する新しいまちづくりの試みである。
- 地域の特徴や交通問題、住民の生活実態等を踏まえた提案であり実現性が高い。また、イベントのような一時的な地域活性ではなく、継続的な地域活性化が期待できる。
- 大学と地域を結び付けることで、学生と地域間で相互理解が生まれ、新たな地域イノベーションが期待できる。
- 地域への効果だけでなく、大学・学生にとっても大きな効果が得られる。社会性豊かな学生の成長。また、工業大学として名工大ブランドの魅力を向上させることは、近年問題視されている「工学離れ」の解決への一助として期待できる。
- 本提案を実現させるためには資金調達は最も重要な課題である。大学予算、または非営利セクターによる資金提供の協力を仰ぐのか検討が必要である。

第4回土木計画学公共政策デザインコンペ
名古屋工業大学
市橋祐希/吉田真平/渡邊雄太/永田史孝/萩田隼平/横山裕章